

2011年4月1日から2015年5月31日まで嚥下性肺疾患で治療を受けた患者さんへ

研究課題名：びまん性嚥下性細気管支炎に対するマクロライドの有用性に関する検討

肺炎は我が国の死因の第3位で、その97%は高齢者です。高齢者の肺炎は嚥下障害（誤嚥）が大きな原因となっています。このため国は、「高齢者肺炎の予防推進」に取り組んでいますが、嚥下障害を改善させることは困難な状況です。このため私たちは、嚥下性肺障害に対する新たな治療法を模索する研究を行っています。

当教室では川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て、2011年4月1日から2015年5月31日の間に嚥下性肺疾患の1つである、びまん性嚥下性細気管支炎で入院となられた患者さんを対象とし、退院後からマクロライド療法を受けている患者さんとマクロライド療法を受けていない患者さんの治療当時およびその後の診療情報、血液データ、画像データを集めて比較し、マクロライドの有用性に関して検討します。本研究の成果として超高齢化社会において治療に難渋する嚥下性肺疾患の新たな治療法が明らかとなり、患者さんに対する適切な治療法が実施可能になります。

本研究は観察研究であり、既存資料のみを用いた研究であるため、新たな人体資料の採取は行いません。また、個人が直接同定されうる情報は収集いたしません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では主任研究者の教員研究費のみを使用いたします。本教室は大正富山医薬品株式会社、第一三共株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、武田薬品工業株式会社、アステラス製薬株式会社から年間50万円以上の奨学寄付金を受け取っていますが、利益相反委員会に申告を行い適正に管理されています。尚、上記企業は本研究とは関係ない企業です。

本研究への不参加や、参加取りやめを希望される方または、何か不明なことがありましたら、実施責任者である下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

[問い合わせ先] 総合内科学1 准教授 宮下修行

電子メール：nao@med.kawasaki-m.ac.jp

電話 086-225-2111(内線8006)